岐阜市は斎藤道三や織田信長など名高い戦国武将が活躍した舞台です。道三・信長は何故岐阜市を選んだのでしょうか？
英雄たちが欲しがった岐阜！ その歴史を作ってきた武将や武士団、彼らの知られざる活躍を一緒にひも解いていきましょう。
身近なところにある歴史が、新たな気付きにつながるかもしれません。

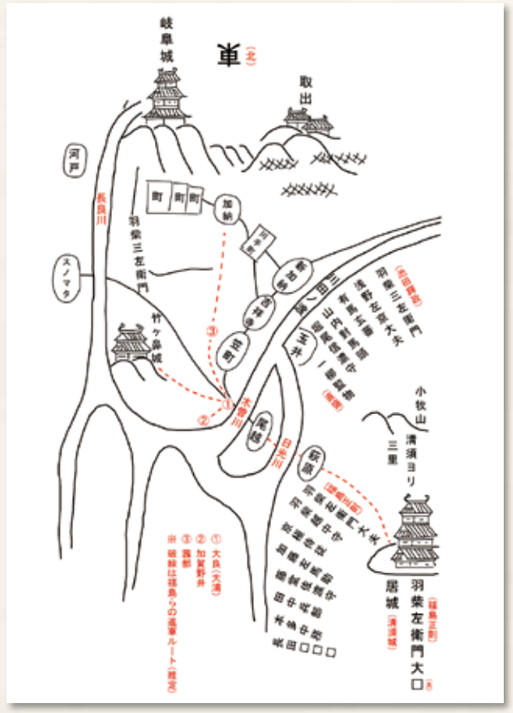
# 福島正則の岐阜城攻め進軍ルート



岐阜市ぎふ魅力づくり推進部
文化財保護課
特任研究員 **内堀 信雄**

プロフィール
昭和34年　栃木県宇都宮市に生まれる
昭和61年　名古屋大学大学院文学研究科（考古学）卒業
岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査などを担当。
主な著書
『東海の名城を歩く　岐阜編』（共編、吉川弘文館、令和元年）
『戦国美濃の城と都市』（高志書院、令和3年）

福島正則（ふくしままさのり）は慶長5年（1600）8月23日の岐阜城の戦いで池田輝政（いけだてるまさ）と一番乗りを争った武将と伝えられています。当時清須城主だった福島正則はどのようなルートで岐阜まで進軍してきたのでしょうか。今回は合戦翌日の8月24日に福島正則が徳川家康次男結城秀康（ゆうきひでやす）宛に出した「福島正則書状写」（以下「書状写」）や太田牛一（おおたぎゅういち）が1607年に書いた『太田和泉守記全（おおたいずみのかみきぜん）』（以下『和泉守記』）および『慶長軍記（けいちょうぐんき）』（1663年、植木悦著）掲載絵図（以下「絵図」）を参考に、福島正則岐阜城攻めの道筋をみていきます。


岐阜城
軍（北）
取出
河戸
長良川
町
町
町
加納
加納口
羽柴三左衛門
スノマタ
竹ヶ鼻城
祖父江
起
起
起
起
墨俣
墨俣
墨俣